

4・5月の2か月間、津南病院にて研修させていただきました研修医の王 馨と申します。

津南病院での研修、そして津南での2か月間の生活は、私の人生においてかけがえのない経験となりました。

まずはこの場をお借りして、津南病院の先生、医療スタッフの皆様、そして津南での生活を支えてくださったすべての皆様に、心より御礼申し上げます。

4月には自分の背を超える積雪がありましたが、春の訪れとともに桜が咲き、田植えが始まり、田んぼには多くの生き物が姿を見せ、季節の移ろいを肌で感じることができました。ゆっくりと流れる時間と、自然と寄り添う暮らしの中で、本当に豊かな時間を過ごすことができました。

私は、自分がこれまで生活したことのない地域の現状や医療体制を知りたいという思いから、津南病院での研修を志望しました。

実際に現地で医療に携わる中で、津南病院の方々が本当に温かく、地域の方々の健康を守っている姿にとっても感銘を受けました。

限られた検査や医療資源のなかでも、丁寧な診察や的確な判断をし、必要であれば迅速に転院搬送の決断をする。そして、医師と患者というだけではなく、日常の中で顔を合わせる“ひと”と“ひと”の関係性でもあり、その信頼関係もこの地域ならではの医療の在り方だと感じました。

そのような環境のなかで私は初めて、「病気を診るのではなく、病人を診る」という言葉の本当の意味を理解し、実践することができたように思います。

単に検査結果や病名に基づいて対応するのではなく、その方の生活背景や退院後の環境までを見据えて関わることの大切さを、日々の診療の中で実感しました。

多くの気づきとともに、医療の現実と直面し、「人を診る」という視点の重要性を改めて学ぶことができました。

目の前にいるのは「患者さん」である前に、まず一人の「人」である。

この価値観は、今後私が医師として患者と向き合ううえで、決して忘れてはならないものだと思っています。

津南での経験を胸に、ここで学ばせていただいたことを大切にしながら、今後も医師として、そして一人の人間として成長できるよう精進してまいります。